

ソリューション概要

インテル® Core™ プロセッサ - ファミリー



多彩なビジネスニーズに柔軟に対応 高品質サービスを付加したレンタル PC の魅力

国内最大の法人向けレンタル会社のオリックス・レンテックが語る
企業の作業効率を向上させるポイントとは？



オリックス・レンテック株式会社

オリックス・レンテック株式会社

〒141-0001

東京都品川区北品川五丁目5番15号大崎プライトコア

電子計測器、科学・環境分析機器、IT関連機器、医療機器、ロボット、ドローンなどのレンタル事業、ロボット事業、ドローン事業、3Dプリンタ事業、計測関連サービス、IT関連サービス、販売/買取サービス、資産・管理運用支援サービス



オリックス・レンテック株式会社
ICT事業企画部 企画チームリーダー

小松 啓 氏

国内最大級の品揃えを誇る 法人向けレンタル会社

法人向け国内レンタル業界において最大のオリックス・レンテック株式会社（以下、オリックス・レンテック）。国内初の計測器レンタル会社として1976年に設立して以来、取り扱い物件の種類を増やし、現在では科学・環境分析機器、PC、サーバー、ワークステーション、医療機器、ロボット、ドローンなど3万2,000種類、170万台にも及ぶ物件を有する国内最大のレンタル企業へと成長を遂げました。

レンタルPCだけで見ても、さまざまなグレードのデスクトップPCやノートブックPC、ディスプレイ機器やメモリーなど各種周辺機器、さらには近年ビジネスの現場でも利用が増えつつある2 in 1 PC、など、多様な製品を取りそろえています。

かつて、企業におけるPCの調達手段はリースか購入が主流でしたが、オリックス・レンテック ICT事業企画部 企画チームリーダー 小松啓氏によれば、近年ではそれに代わってレンタルPCの価値を高く評価する企業が増えてきているといいます。

「PCを長期間利用する場合、かつては調達コ

ストを抑えられるリースが高く評価されてきましたが、現在では財務の観点からコストをオフバランスできるレンタルPCのコストメリットが注目されています。またPCの運用管理に掛かるコストを大幅に抑えることができる点も、レンタルPCの魅力の1つです」

PCをリースもしくは購入する場合は、PCのメーカーや調達先ベンダー、リース会社、パートナーSI企業など、場合によっては4、5社の取引先とやり取りする必要があります。一方でレンタルPCの場合は窓口をレンタル会社に1本化できるため、運用管理業務を大幅にスリム化できます。またPCが故障した場合も、レンタルPCならレンタル会社から代替機器が即座に提供されるため、修理を待つ必要がなく、ビジネスのダウンタイムを極力抑えることができます。

「弊社では、指定先へのお届けからレンタル期間終了後のPCの引き取りまで、すべてをワンストップで提供するため、お客さま側の管理工数を大幅に抑えることができます。故障時の代替機の提供も、遅くとも中1日、午前中に連絡いただければ翌日にはお届けできます。PCのレンタル期間も長期レンタルだけでなく、5日単位、1台単位から対応しています」(小松氏)

オリックス・レンテックによるレンタルPCのメリット

 電話1本でスピーディーにお届け

 レンタル期間は自由に設定可能

 豊富なラインナップをご用意

 最新機器のご利用が可能

 故障時には修理または代替対応

 レンタル料は経費で処理可能

* 会計、税務処理は監査法人などをご相談、ご確認のうえ貴社のご判断にてお取り進めください。

レンタル PC なら常に優れたスペックの PC を従業員に提供可能

情報ビジネスには 常に高いスペックの PC が必須

オリックス・レンテックのレンタル PC を長年使い続けている企業の1つが、インテージグループ（以下、インテージ）です。同社は国内最大のマーケティング・リサーチ企業として、さまざまな商品の販売データや消費者の購買データ、独自のリサーチデータなどを広く収集し、企業のマーケティング活動に役立てるビジネスを展開しています。また近年ではビッグデータ分析などを通じて、収集したマーケティング・データから新たな価値を引き出す先進的なデータビジネスにも積極的に取り組んでいます。

そんな同社がオリックス・レンテックのレンタル PC を使い始めたのは、2003 年のことでした。インテージ・アソシエイツ オフィスサービス部 部長 高橋喜憲氏は、当時を次のように振り返ります。

「弊社は大量のマーケティング・データを取り扱う企業なので、当時から PC がないと仕事が回らない状況でした。PC のスペックがそのまま業務効率に直結するため、業務現場からは常にその時々で上位のスペックの PC を使いたいという要望があがっていました。しかしそれまで利用していた 5 年リースでは、リース期間中に PC のスペックがどうしても陳腐化してしまいます。そこで、PC の調達方法を根本的に見直すことにしたのです」

また同社では、当時としては国内ではまだ珍しかったモバイルワークや在宅勤務といった、新たなワークスタイルをいち早く取り入れつつありました。こうした取り組みを推進する上でも、PC の調達や利用の在り方を見直す必要があったといいます。

「2005 年の本社オフィス移転を機に、今でいう働き方改革の前身となるような取り組みを始めていました。場所にとらわれず、オフィスの外でも仕事ができる環境を整えるためには、ある程度スペックが高いノートブック PC



株式会社インテージ・アソシエイツ オフィスサービス部 部長 高橋喜憲氏（左）、同部オフィスグループ 小暮雄司氏（右）。現在は旧機種と入れ替えの時期だという

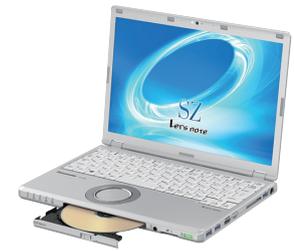
を用意する必要がありました。また、業務における PC への依存度がますます高まることになるので、万が一 PC が故障してもすぐに仕事の環境を復旧できる体制を整えることも急務でした」（高橋氏）

当初は、リース期間を短くした 3 年リースの採用も検討したといいますが、故障時の代替機の迅速な提供をはじめとした、リースにはないレンタルならではのサービスを高く評価した結果、リースからレンタルへと全面的に切り替えることにしたといいます。

「初期コストだけを比べるとリースの方が安かったのですが、故障時の迅速な対応、そしてキittingをはじめとした煩雑な運用管理作業を代行してくれるサービス面などのメリットを考慮して、思い切ってレンタルに切り替えることにしました。なかでもオリックス・レンテックさんは、機種選定の段階からこちらの立場に立って親身に相談に乗っていただき、手厚いサポートが期待できそうだと判断したので、全面的にお願いすることにしました」（高橋氏）

先が丸くなってしまった鉛筆では いい仕事はできない

以来、同社では 15 年近くに渡ってオリックス・レンテックのレンタル PC を使い続けています。現在では、インテル® Core™ i5 6300U プロセッサを搭載したパナソニック製の B5 サイズ・ノートブック PC「レッツノート CF-SZ5」を、標準機として従業員に配付しています。この機種を選定した理由について、



パナソニック製の B5 サイズ・ノートブック PC「レッツノート CF-SZ5」

インテージ・アソシエイツ オフィスサービス部 オフィスグループ 小暮雄司氏は次のように説明します。

「十分な処理性能を持っているとともに、軽量で可搬性に優れ、かつ堅牢で壊れにくいという特性を高く評価しました。一部の業務ではデスクトップ PC もレンタルしていますが、基本的には OA 用 PC はこの機種で統一しています。機種を統一することで、運用をシンプル化できる効果を狙った結果です」

また現在の機種に切り替えてからは、プロセッサの高い処理性能とともに、ディスク装置が SSD 化されたことで筐体がさらに軽量化され、起動時間も大幅に短縮されたことから、特に社外で PC を利用する際の使い勝手が大幅に向上したといいます。

「現在利用している機種に切り替えたことで、あらためて PC のパフォーマンスが仕事に与える影響を実感しました。PC はもはや特別な機械ではなく、仕事に欠かせない道具ですから、常に最良の状態のものを従業員に提供しなくてはなりません。鉛筆にたとえるなら、先が丸くなった鉛筆ではいい仕事ができませんし、折れた鉛筆ではそもそも仕事ができません。PC も同じで、常に優れたスペックの道具を使い続けることのメリットを日々実感しています」（高橋氏）

また、キittingや故障などへの対応をオリックス・レンテックへアウトソースすることで、自社の PC 管理工数を大幅に減らすとともに、PC トラブルが業務に与える影響も最

小限に抑えられているといいます。同社では今後、データビジネスをより広く展開していく上でも、また働き方改革の取り組みを加速していくためにも、レンタル PC のメリットをより活用していきたいとしています。

オリックス・レンテック社内でも レンタル PC を活用

オリックス・レンテックでは、顧客にレンタル PC を提供するだけに留まらず、自社でも 2016 年からレンタル PC を活用し、そのメリットを自ら享受しています。オリックス・レンテック 業務改革室長 望月高行氏によると、同社はかつて PC を購入していましたが、業務現場から PC の調達や利用の在り方について改善を望む声が多く寄せられていたといいます。

「社内では主に、購入から長期間が経過したスペックの低い旧モデルの PC が配られていました。そのため営業担当者は、お客さまに最新の PC のレンタル案件を提案する際に、紙の資料を使って説明せざるを得ず、『これでは説得力に欠ける』と不満の声が挙がっていました。やはりビジネスの最新の潮流に対応するためには、われわれ自身が常に最新の PC に触れることが必要だと感じていました」

PC の処理性能や起動時間などに対する不満も、現場からしばしば挙がっていたといいます。多くの PC は起動に時間がかかり、社外でちょっとした空き時間にノートブック PC を使って作業を行おうと思っても、起動処理が一通り完了して、ようやく使える状態になったと思ったら「もう時間切れ」というのが実情でした。

さらに、PC 資産が必要以上に膨れ上がっていたことも大きな課題でした。同社 業務改革室 情報企画チームリーダー 藤山淳氏は、その理由を次のように説明します。

「PC の故障に備えて、現場の独自判断で予備機を確保しているケースが散見されました。中には、社員数の倍の台数の PC を確保している部門もありました。こうした隠れた無駄なコストを削るためには、PC の購入や資産管理の在り方を抜本的に見直す必要があると感じていました」



オリックス・レンテック株式会社
業務改革室長
望月 高行 氏

そんな折、2016 年にオリックスグループ全体で PC や業務アプリケーションを刷新するプロジェクトが立ち上がりました。オリックス・レンテックでは、これを「PC の調達・利用に関して抱えていた課題を一気に解決できる好機」ととらえ、それまでの購入で PC を調達していたやり方を、グループ全体でレンタル PC に切り替える提案を行いました。

「購入からレンタルに切り替えることで、PC を機動的に入れ替えながら常に最新の PC を使い続けられるようになります。またレンタルなら、たとえ PC が故障しても自社のサポートセンターにある代替機がすぐに届くため、自社内で予備機を確保しておく必要もありません。こうしたメリットを訴求した結果、オリックスグループ全体で弊社のレンタル PC を導入することになりました」(望月氏)

最新型レンタル PC の導入で 周回遅れから一気に先頭に

こうして同社は 2016 年より、レンタル PC サービスを全面的に導入することになりました。

「オフィスワークがメインの社員に対しては、とにかく作業効率を重視してハイスペックなデスクトップ PC を提供し、また会議がメインの管理職に対しては、社内での移動に適したノートブック PC を提供しました。さらに営業担当者に対しては、最新型の 2 in 1 PC を提供しました。これはとにかく起動が早いので、社外での作業効率は劇的に向上しています」(望月氏)

同社では現在、PC の利用状況を定期的にモニタリング・評価する取り組みを進めていますが、2 in 1 PC を導入して早々、社外での PC 利用時間が平均 1 時間に達し、現在では



オリックス・レンテック株式会社
業務改革室 情報企画チームリーダー
藤山 淳 氏

さらに伸びているといいます。このことから、業務現場の生産性を向上させる上で、最新 PC の導入は確実に効果があると同社では評価しています。また全社の PC をレンタルに統一したことで PC 資産の利用状況を一括して可視化・管理できるようになり、不要な PC 資産が大幅に減少しました。

それまで、スペックが低い PC をだましだまし使っていた状態から、最新型のレンタル PC を社員全員が使いこなす体制へと一気に移行したことで、現在同社の PC 利用状況は「周回遅れから、一気に先頭に躍り出た状況」と藤山氏は表現します。

「今後も先頭に立ち続けるためには、今後はハードウェアだけでなく、AI や RPA、最新のコミュニケーション・ツールなど、最新 PC ならではのサービスを自社やグループ内で運用し、そこで得たノウハウをお客さま向けサービスに反映していければと考えています」(藤山氏)

多様なラインナップの中から顧客のニーズに合ったモデルを選ぶのが最大の強み

業界最大手ならではの「規模のメリット」を生かしたサービス

オリックス・レンテックのレンタル PC では、特定のメーカーに縛られることなく、複数メーカーの幅広い製品を取りそろえています。また常に大量の在庫を確保しているため、顧客は多様なラインナップの中からニーズに合致するモデルを選ぶことができます。業界最大手ならではの「規模のメリット」が、同社最大の強みだと小松氏は述べます。

「3万2,000種類の商品ぞろえは、他社の追随を許していないと自負しています。また、メーカーから機器を大量に、安く一括購入できるため、その分お客さまにも価格を抑えてレンタルできます。こうした規模の強みを生かしたコストメリットが、弊社の最大の強みの1つです」

また同社のレンタル PC は、サービス品質の高さでも定評があります。常に質の高いサー

ビスを提供するために、同社ではサービスセンターを自社で運営し、修理やキittingといったサービスを外部に委託することなく自社で行っています。

技術面でのサービス以外にも、顧客の要件に応じてニーズに合致した機器を選定・提案するなど、顧客に寄り添ったきめ細かなサービスの提供を常に心掛けているといいます。そのためにも、常に最新の PC を提供できる準備を整えておくことが大事だと小松氏は言います。

「企業の研究開発部門のお客さまも多く、そういった現場ではビジネスの価値に直結するため、最新プロセッサを備えたハイスpekな PC の利用が求められます。そうしたニーズに応じていくためにも、常に第8世代インテル® Core™ プロセッサ・ファミリーなど、インテル製の最新プロセッサを備えた PC をラインナップするよう心掛けています」

今後は PC もサブスクリプション方式での利用が主流に

今日、世の中の動きが「所有から利用・共有」へと大きく移行していく中で、企業が利用する PC の調達方法も購入・リースからレンタルへとますますシフトしていくことが予想されます。そのなかで同社でも、レンタル PC の価値をさらに高めていくために、新技術を活用したさまざまなビジネスモデルを創出していきたいとしています。

「ソフトウェアの世界では現在、クラウドサービスやサブスクリプション方式が急速に普及しつつあります。そうした流れを受けて、PC をはじめとするハードウェアも今後は、サブスクリプション方式での利用が増えてくると思われます。そうしたお客さまのニーズにお応えすべく、ソフトウェアのサブスクリプションとハードウェアのレンタルをセットで提供するなど、時代に即したサービスを提供していければと考えています」(小松氏)



東京技術センター (東京都町田市)



神戸技術センター (兵庫県神戸市)



この文書は情報提供のみを目的としています。この文書は現状のまま提供され、いかなる保証もいたしません。ここにいう保証には、商品適格性、他者の権利の非侵害性、特定目的への適合性、また、あらゆる提案書、仕様書、見本から生じる保証を含みますが、これらに限定されるものではありません。インテルはこの仕様の情報の使用に関する財産権の侵害を含む、いかなる責任も負いません。また、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとよらずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1

<http://www.intel.co.jp/>

©2018 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2018年7月

337851-001JA
JPN/1807/1K/CB/PTG/KT